

第七問 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

① **「若い」**がまずは**「問題」**としてしか浮上してこないのは、**「若い」**をほんとうの意味で「問題」にすることができなくなっているわたしたちの**社会のあり方**からくるのではないだろうか。ひとの**支えあい**というものが**介護**というかたちでしか表象されないというのは、**「若い」**にとつて**不幸な**ことである。

② **「老」と「幼」**に共通するのは、いずれも**単独で**生きることができないということである。いいかえると、他のひとの世話を受けるというかたちでしかその存在を維持できないということである。△ **その**世話が、**支えあい**というよりも、**一方から**他方への介護であつたり保護というかたちをとるしかないのは、**哀しい**ことである。ひとはただ生きてあるだけでなく、生きるということ、**じぶん**がここにあるということ、そのことの意味をも確認しながらしか生きられないものであるのに、**介護や保護**やときに**収容や管理の対象**としてしか**じぶん**の存在を思い描くことができないときには、**じぶん**がここに生きてあるということについて意味を見いだすのが**ひじょう**に**むずかしくなる**からである。**じぶん**はもう消えたほうがいいのではないか、**じぶん**はお荷物、厄介者でしかないのではないか……と思いつめながら生きるというのは**苦しい**ことである。△ **この時代に、そういう思いにとらわれることなく**老いていくひとが、**はたして**どれくらいいるだろう。

③ この社会じたいが **コウハンな分業のシステム**によつてなりたっていることから

〔出典〕
わたきよか
鷗田清一
『若い空白』

〔著者出題歴〕

- ・ センター試験
- ・ 東京大学
- ・ 神戸大学
- ・ 広島大学
- ・ 九州大学
- ・ 上智大学
- ・ 明治大学
- ・ 立教大学
- ・ 早稲田大学

第七問

分かるように、**ひと**は**共同で**生きるものである。単独でその生命を維持することができない存在である。社会のなかにあつて**ひと**は**独力**で食糧や衣を手に入れることも住まいを作ることもできない。② **支えあい**というのは、**けつして理想**ではなくて、**ひと**であるかぎり**必然**の事実なのである。そして**「老」と「幼」**の世話が**困難**をはらんでいるとしたら、それは**社会全体**が**問題を抱え込んで**いるということにほかならないのである。支えあいということがうまくできていないのであるから。△ **この社会全体**のあり方の問題だということになる。

④ **高齢者**についてよく「二十四時間要介護」ということがいわれるが、**赤ん坊**も同じように「二十四時間要介護」である。いや、**大人**だつて家族のなかで、あるいは、**キム**先で、他人と**支えあつて**生きているのであつて、**「自立」**という言葉はあるごく限られた文脈で用いるべきであり、個人の存在全体を表す言葉としては**不適切**である。それに、**ケア**がもつとも一方通行的にみえる「二十四時間要介護」の場面でさえ、**ケア**は**ほんとうは双方向的**である。子どもを育てるなかで**赤ん坊**の笑顔に救われないひとはいないだろう。高齢で、あるいは重度の障害によつて**ほぼ全面的に**他人の**ケア**に依存しているようにみえるひとの前でも、いや前でこそ、**ひと**は**「強く」**あろうとして**じぶん**がこれまで押し込め、抑えつけてきた**じぶんのなかの「弱さ」**に気づき、それに**素直に**向きあえるようになる。そう、**じぶん**という存在を頑なにしてきた**こわばり**が解かれることがある。

⑤ この背景には、それぞれ**じぶん**がだれか、何を望んでいるのかさえ**不明**であるというこ

4C

45

50

となる。

力

 σ

68

d

[illegible]

イ 高齢者問題にとらわれ、他の社会問題への対策がおろそかになっていること。
ロ あらゆる人が支えあつて共同で生きる社会システムに支障が生じていること。

ハ 人々の社会福祉への関心が低く、高齢者などを介護する専門家の数が少ないこと
ニ 独力で生きようとする人が増え、高齢者を助けるシステムが衰退していること。
ホ 人々がじぶんの生きるといふことの意味を確認しようとしていないこと。

イ「古い」を遠ざけたいものと見なす風潮が高まるなかで、誰も積極的に介護にのりだそうとはなくなっている。

ロ「若い」の年齢にさしかかると、身体的にも精神的にも活力に満ちあふれていても、介護の対象と見なされてしまう。

ハ「老い」とともに離職を迫られ、社会的分業システムから疎外された無為な生活を強いられるようになってしまう。

二「老い」が狭隘な固定観念で捉えられているため、生産力に満ちた人々までが「老い」を問題にされるようになっていく。

ホ「老い」が否定的なイメージを帯びて問題視され、老いて生きることには積極的な意味づけを見出しにくくなっている。